

大樹でIHIエアロスペース

着陸自動誘導の技術確立へ パラシュート試験開始

【大樹】宇宙・航空分野のシステム開発を行う民間企業「IHIエアロスペース」(本社東京)は18日、大樹町多目的航空公園で、パラシュートの性能などを確認する試験を開始した。(浅井文人)

ロケットの回収技術を 実験を行う予定。着陸す
開発する同社は、200 3年1月、同航空公園付
近で、実験機による回収 空から目的地まで自動的



町多目的航空公園で始まったIHIエアロスペースのパラシュート試験

に誘導できる技術の確立
を目指している。
今回の試験は、同実験
機に搭載するパラシュ
ートに、どれくらいの力
がかかるかを調査。落下
時の減速予想を行うため、
データを収集する。また、
パラシュートのコントロ
ール性能も調べる。
試験では、5トトラック
の荷台上に、減速用の
「ドローク」(円形、直
径約2・2メートルと、本
体の「ラムエア」(長
方形、横7・9メートル、
縦3・4メートル)という2
種類のパラシュートを
設置。トラックを滑走路
上で時速40キロで走行
させながら、収納状態
のドロークを放出でき
るか確認する。また、
開いたままの状態
でドローク、ラムエ
アを別々にトラックで
引っ張り、パラシュ
ートにかかる力を調
べる。20日まで行
われる予定。
同社の大塚浩仁・第
一宇宙技術課長は「国
土の狭い日本では、
長い滑走路は確保し
にくい。一連の実験
で、一定の範囲内

に機体を自由に着陸させたい」と話している。